

1 共通項目

基本目標 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

| 目標                     | 取組の内容                                | 評価<br>(最高4) | 分析及び改善策<br>(○…成果、●…課題)   |
|------------------------|--------------------------------------|-------------|--|
| 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現 | 1 豊かな心の育成<br>①いじめ、不登校への適切な対応<br>(必須) | 3.7<br>【妥当】 | ○いじめの芽・兆候もいじめとの認識の下、日常的な観察や生活アンケートを通していじめの早期発見、適切な対応に努めている。  |
|                        | ②道徳教育の充実、人権教育の推進                     | 3.2<br>【妥当】 | ●不登校、不登校傾向の生徒は増加傾向にある。家庭だけでなく、スクール・カウンセラー(SC)や町こども政策課、児童相談所等の外部機関との連携を強化する。  |
|                        | ③生徒による目標設定と達成努力                      | 3.3<br>【妥当】 | ○学級担任だけでなく、学年所属教員全員によって道徳科の授業及び評価を行った。平和・人権集会では、外部講師等を活用し、生徒の意識向上に努めた。<br>○校則の見直しを生徒会が主体となって行った。より良い学校生活の実現に向けて、生徒自らがどうすべきか考えるきっかけとなった。    |
| 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現 | 2 基礎学力の充実<br>①わかる授業の実施               | 3.2<br>【妥当】 | ●生徒の言葉から「めあて」を引き出すなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を行っていく必要がある。   |
|                        | ②家庭学習の習慣化                            | 2.9<br>【妥当】 | ○全学年で自主学習ノート提出の取組を共通実践した。  |
|                        | ③キャリア教育の充実                           | 2.8<br>【妥当】 | ●ながよ検定9割合格に向けて計画的な基礎・基本の定着を図る取組が求められる。<br>○ふるさとキャリア教育における系統的な体験学習の構築に向けて研究に熱心に取り組んだ。<br>●次年度の研究発表会を見据え、更に研究を活性化させる。                        |
| 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現 | 3 健康安全教育の推進<br>①基本的な生活習慣の確立          | 2.9<br>【妥当】 | ○生徒会活動の活性化を通して、時間や身なりなどへの意識を高めることができた。   |
|                        | ②健康・体力の維持・増進                         | 3.5<br>【妥当】 | ●地域の方々への挨拶は課題である。<br>○昨年はコロナ禍で行うことができなかった体育大会を無観客ではあるが開催することができた。部活動も感染対策を行い、体力の維持・増進につながった。   |
|                        | ③生徒の危機管理意識の高揚<br>(食物アレルギー、メディア安全等)   | 3.4<br>【妥当】 | ○感染拡大防止のため、給食時の無言配膳、昼休みの過ごし方などの指導を徹底し、生徒も感染対策の意識を高めることができた。<br>●メディア依存による影響が様々なところに出てきている。メディア安全教室や家庭教育学級などを通して、生徒及び家庭の危機管理意識を高めしていく必要がある。 |

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p>4 特別支援教育の充実</p> <p>①一人ひとりのニーズに応じた支援<br/>(必須)</p> <p>②生徒の困り感の解消</p>                    | <p>3.6<br/>【妥当】</p> <p>3.6<br/>【妥当】</p>                     | <p>○毎週の特別支援教育部会を通して情報を共有し、個々に応じたきめ細かな対応を行った。</p> <p>○毎月の生活アンケートや学級担任による教育相談、心の教室相談員やSCによる相談、保健室での対応など、相談機能の充実を図るとともに、事案が起こった場合には、学年職員が連携して対応した。</p>  |
| <p>5 国際化への対応</p> <p>①日本文化や地域への理解</p> <p>②コミュニケーション力の育成</p> <p>③グローバルな視野の育成</p>           | <p>2.7<br/>【妥当】</p> <p>2.9<br/>【妥当】</p> <p>2.4<br/>【妥当】</p> | <p>○ふるさとキャリア教育における体験学習を通して地域の方々との交流の場が増え、生徒のふるさと長与への意識が高まった。</p> <p>●学校内外の行事がコロナ禍の影響を受ける中、生徒が生き生きと活躍する場を可能な限り確保していくことが学校の役割である。</p> <p>●マスクでの生活が強いられ、相手の表情がわかりづらい。他の意見に耳を傾けるとともに、自分の思いや考えを表す場面を意図的に授業等に仕組んでいく必要がある。</p> <p>●ようやく町内のALTが3人体制にもどった。英語科を中心に積極的に活用していく。インターネットを通じた学習も積極的に活用し、国際的な視野を育てていく。</p> |
| <p>6 教育環境の整備</p> <p>①学習環境の整備</p> <p>②ICT機器の活用、情報の発信</p>                                  | <p>3.0<br/>【妥当】</p> <p>3.6<br/>【妥当】</p>                     | <p>○校舎壁のペンキ塗りや中庭のステージ設置など、生徒と教職員が師弟同行で環境整備を行った。</p> <p>●無言清掃等の日常的な美化意識には課題がある。</p> <p>○1人1台タブレット端末が配付され、日常的に授業の内外で活用されるようになった。</p> <p>●タブレット端末の目的外使用など、生徒指導上の問題が多い。コロナ禍ゆえに、通信やホームページを通して生徒の学校での姿を伝えていく必要がある。</p>   |
| <p>7 教職員の資質向上</p> <p>①指導力の向上 (必須)</p> <p>②服務規律の遵守</p> <p>③「教職員の働き方改革」に基づく風通しの良い職場づくり</p> | <p>3.5<br/>【妥当】</p> <p>3.8<br/>【妥当】</p> <p>3.3<br/>【妥当】</p> | <p>○主体的学習態度の評価のために全教員1人1回の研究授業を行った。自主学習ノートの提出徹底やながよ検定に向けての補充学習など、教科の枠を超えて教員が協力した。</p> <p>○服務規律強化月間の研修等によって、体罰やハラスメント、情報漏洩等の不祥事防止への意識を高めた。</p> <p>●生徒への言葉掛けや働き掛けにおいて更に慎重になる必要がある。</p> <p>○学年等所属職員間での同僚性・協働性が高い。月80時間以上の超過勤務はほぼない。</p> <p>●月45時間以内の超過勤務達成に向けて、更なる業務の効率化とともに、勤務時間の自己管理が求められる。</p>             |

## 2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

### （1）成果

- ①体育大会や合唱コンクール等の学校行事だけでなく、校則見直しや学校環境整備作業等、様々な活動を通して生徒の主体性を育む取組を行った。
- ②ふるさとキャリア教育における系統的な体験学習を通して地域の方々との交流の場が増え、生徒のふるさと長与への意識が高まった。
- ③教員1人1回の研究授業、自主学習ノート提出の徹底、ながよ検定や学力調査、定期テストに向けての補充学習など、学力向上に向けた取組を組織的・協動的に行った。

### （2）課題等

- ①不登校、不登校傾向の生徒は増加している。家庭だけでなく、スクール・カウンセラーや町子ども政策課、児童相談所等の外部機関との連携を強化しなければならない。
- ②ネット・メディア依存による影響が、不登校や学習不振、生活習慣の乱れなど、様々なところに出てきている。メディア安全教室や家庭教育学級などを通して、生徒及び保護者の危機意識を高めていかなければならない。
- ③学校内外の行事がコロナ禍の影響を受けて制限されている。マスクでの生活が強いられ、相手の表情がつかみにくい。生徒が生き生きと活躍する場や、自分の考えや思いを表現する場を更に増やしていかなければならない。

## 3 学校関係者評価

- コロナ禍において対応できていると思います。
- 外部から見えないところが多く、コメントが難しい。
- 学校へ足を運ぶ機会は減りましたが、校外でも、挨拶は、今までどおりとても気持ち良く行われていると思います。マスク生活等でなかなかコミュニケーションが取りにくい中ですが、コロナ等の要因でのいじめがないように、保護者を含めての再認識できる場がもてるようになればいいと思います。
- 学校評価を見ると、生徒たちは「先生は、一人一人の生徒を大切に…」「先生は、日ごろから生徒のことを理解…」の項目等に高い評価をしている。また、職員も「学校は、一人一人の生徒を大切に…」「学校は、困り感のある生徒への支援や言葉掛け…」に高い評価をしている。学校が、生徒と先生の信頼関係の下で、生徒の更なる向上を目指し、教育活動に取り組まれていることを知ることができる。生徒の笑顔が目に見えます。「生徒が伸び伸びと活動する学校」楽しみにしております。
- 今後もいじめの未然防止、早期発見に努めていただくことをお願いします。
- 生徒たちが登校する時間に、横断歩道のところに立っています。100名を超える中学生が通ります。「おはよう」と声を掛けると、笑顔が、元気な声が返ってくることがあり、元気をもらっています。また、横断歩道の手前で停車した運転手さんに頭を下げ、急ぎ足で渡る姿を見ると嬉しくなります。コロナ禍の中で少し元気がないかなと感じることもありますが、生徒たちも「がんばっている」との思いが強いです。自分の健康のためにも応援します。
- 学習面では、県下トップの学力を付けさせる指導は素晴らしいと思います。また、部活動においても新たな取組でクラブとの融合など、働き方改革に対応する努力は大切なことです。先生、生徒のための教育現場の構築に期待します。

## 4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

- 新型コロナウイルスの感染が収束した暁には、生徒の活躍する姿を積極的に公開する。コロナ禍であっても、ホームページや紙媒体の通信等を活用して、学校行事等における生徒の姿をもっと伝えていく。

## 5 その他

- 保護者アンケートの回答率が、前期 92.5%に対し、後期 58.3%と低下した。前後期ともに WEB 上の GoogleForm による回答方法を行ったことによって、回答は簡便になっているが、あんしんメールによるアンケート実施の告知を複数回行うなどして、回答率アップにつなげたい。
- 生徒アンケートについては、自分自身が入力した前期回答と比較しながら後期の入力を行えるよう、Google アカウントによる入力を行う。